

地域再生計画（道整備交付金・港整備交付金）事後評価調査

都道府県名	熊本県	事業実施主体	熊本県、八代市	地域再生計画名	恵まれた資源を活かして、発展する豊かな八代再生計画
計画期間	平成19～23年度	評価責任者	八代市農林水産部		

	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	森林施業の促進	10ha	H18	-	-	-	35ha	H23	43.2ha	○	市道と林道を一体的に整備したことにより森林の施業効率が向上したため、目標を達成した。
	指標2	森林整備箇所への移動時間短縮	-	H18	-	-	-	15分～1時間	H23	13分～1時間10分	○	道路整備により道路交通網の改善と走行条件の向上により、目標を達成した。
	指標3	林業の就労条件の改善による素材生産量の10%増加	-	H18	-	-	-	10%	H23	31%	○	市道と林道を一体的に整備したことと、森林施業における労働環境の改善により施業効率が向上したため、目標を達成した。
	指標4	東陽町管内観光入り込み客数の増加	135,000人	H18	-	-	-	150,000人	H23	321,229人	○	道路整備により道路交通網が改善され、またイベント等(東陽しょうが祭り)の開催により、目標を達成した。
	指標5	出漁機会の増加(鏡港)	130日	H18	-	-	-	160日	H23	160日	○	航路を浚渫したことで干潮時の潮待ちを解消し、漁船の安全な航行を図ることにより、目標を達成した。
	指標5	出漁機会の増加(植柳漁港)	150日	H18	-	-	-	180日	H23	180日	○	泊地を浚渫したことで干潮時の潮待ちを解消し、漁船の安全な航行を図ることにより、目標を達成した。
	指標6	体験型観光事業の推進	0	H18	-	-	-	50人	H23	339人	○	水域施設の整備により港の利便性が向上し、目標を達成した。

②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1											
	指標2											

③事業の進捗状況	事業名	整備量(その他の事業では取組内容)			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度(H)	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業(整備延長)	0.15km	-	0.15km	生活道の改善により通行の安全性の向上及び林道へのアクセス向上により森林施業の促進に繋がった。
	林道整備事業(整備延長)	6.5km	-	6.5km	林道の開設及び走行条件の改善により森林施業が困難であった地域へのアクセスが向上し、森林施業の効率化が図れた。
	港湾施設整備(航路浚渫)	-1.0m	-	-1.5m	航路を浚渫したことで干潮時の潮待ちを解消し、漁船の安全な航行を図り、港の利便性が向上した。
	漁港施設整備(泊地浚渫)	±0.0m	-	-0.5m	泊地を浚渫したことで干潮時の潮待ちを解消し、漁船の安全な航行を図り、港の利便性が向上した。
その他の事業	森林整備事業の活用	計画期間内に毎年度実施			市道と林道を一体的に整備することで、森林の造林・間伐・保育等の施業や作業道整備事業等を計画的に実施することが出来た。
	観光イベントの開催	計画期間内に毎年度実施			特産物である「しょうが」をメインにして、「東陽しょうが祭り」を実施し、観光客誘致を実施した。
	特産品の販売拡大	計画期間内に毎年度実施			東陽地域の物産館やイベント等で特産物であるしょうが等の販売を行った。
	山間地域等と都市の交流	計画期間内に毎年度実施			林業地域では林業体験や収穫体験を実施し、水産業地域では体験型観光事業「船出浮き」を実施することで、都市と林業地域、水産業地域の交流を図れた。
計画外で独自に実施した事業					

④評価方法 事業主体の関係各課において評価・検討を行った。

⑤事後評価の公表方法 八代市ホームページに掲載

⑥計画全体の総合評価 山間部において道整備交付金事業活用した市道や林道の一体的な整備により道路網の強化と走行性の向上が図れ、森林施業の環境改善や効率化が改善されたことと、林道を整備することにより災害等発生時に迂回路としての機能が向上し、利用価値が高まった。また、平野部においては港整備交付金事業を活用し水域施設の整備により漁業活動の環境改善と安全な航行を確保できたことと、新たな産業である体験型観光事業の活性化に繋がった。これにより生かされていなかった地域の農林水産資源を発掘し、地域の振興に大きく貢献した。

⑦今後の方針等 本地域再生計画を実施したことにより改善はされたものの、本地域の農林水産資源を生かすことができる市道や林道、港等のハード整備が遅れている。山間部においては道路整備がなされておらず森林整備を必要とする山林も多く残っている。基幹産業である林業においては、森林整備と木材供給の推進を図るには道路整備は必要不可欠である。また、平野部においては水産業の玄関となる港の整備が必要であり、安全な航行及び安定した漁業活動の確保だけでなく、新たな産業を開拓する上でも必要となる。今後も継続的な整備を進め、更なる振興を図って行く。